

令和2年度第2回八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会 会議録

- 1 開催日時 令和2年12月15日（火）午後3時から4時10分まで
- 2 場所 八千代市役所 新館6階 第4会議室
- 3 出席者 <委員> 6名
佐藤 俊恵委員，田中 宏行委員，上大川 順委員，
島貫 淳委員，島 勝彦委員，町塚 栄介委員
<事務局> 5名
企画部 小川部長，加藤次長，
企画経営課 原田主幹，井澤副主幹，赤川主任主事
- 4 議題 (1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(2) その他
- 5 公開・非公開 公開
- 6 傍聴人 0名（定員5名）

【会 議 録】

- 1 開会
- 2 委員挨拶
- 3 議題

(1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

○田中座長

お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は4時半までの予定となっております、限られた時間ではございますが、活発な議論ができればと思います。

それでは、会議次第に基づき、議事を進めてまいります。

議題(1)「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について」、事務局の説明を求めます。

○事務局

それでは、議題1「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について」、説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

それでは、お手元にあります資料1をご覧ください。

初めに、今年度初めて御出席される委員の方もいらっしゃいますので、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定における本市の方針につきまして、簡単ではございますが、御説明させていただきます。

まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、平成26年11月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少への対応と活力ある地域社会の形成に向けた目標と具体的な施策を定めた計画となっており、本市では、平成28年3月に「八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その計画期間が今年度をもって満了となります。

また、本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進める指針であり、市の最上位計画である第4次総合計画につきまして、計画期間が今年度までとなっているとともに、総合計画と総合戦略の目指す方向性が共通していること、また、現行の総合戦略で位置づけている取組の約9割において、第4次総合計画後期基本計画の施策と重なっており、すでに整合が図られていることを踏まえ、令和3年度から始まる次期計画につきましては、総合戦略と総合計画を一体的に策定する方針の下、現在、第5次総合計画の策定を進めているところでございます。

それでは、資料1の「1 総合計画と総合戦略の位置づけ」について、御説明いたします。

1点目として、先程の説明と重複いたしますが、総合計画と総合戦略の目指す方向性が共通していることから、第2期総合戦略は第5次総合計画に包含するものとして、一体的に策定することとございます。

中ほどにイメージ図を示しておりますが、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成する第5次総合計画において、総合戦略の趣旨を含めて策定してまいります。

2点目として、地方創生に関する目標や施策について、第5次総合計画として策定する冊子において別に明示し、地方創生の観点からも効果的に施策を推進することをございます。

3点目として、第2期総合戦略の計画期間につきましては、第5次総合計画の前期基本計画と合わせて、令和3年度から令和6年度までの4年間とし、具体的な取組と重要業績評価指標（KPI）は、前期実施計画に位置づけて事業を推進していくことをございます。

総合計画と総合戦略の関連するイメージにつきましては、参考資料1及び参考資料1-2を併せてご覧いただければと思います。

参考資料1は第5次総合計画の目次を抜粋したもので、第1編序論、第2編基本構想、第3編前期基本計画から構成し、第1編八千代市第5次総合計画序論の第2章に「総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ」の項目を設け、参考資料1-2の中段から下段にかけてとなりますが、総合戦略を包含していることを記載しております。

参考資料1に戻りますが、第2編の基本構想と第3編の前期基本計画、計画の冊子とは別に作成する実施計画のそれぞれの計画の中に、総合戦略の考え方を踏まえた取組が含まれ、3ページにありますように、第4編に、第2期八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略を記載し、地方創生に関する目標や施策について、明示しております。

次に、資料1に戻っていただき、下段にあります「2 基本的な考え方」について、御説明いたします。

1点目として、総合戦略の目的である地域の活性化や人口減少の歯止めについては、その効果が出てくるまでに相当の時間を要するため、「継続は力なり」という姿勢を基本に、第1期総合戦略の取組を継続し、一層の充実・強化に取り組むことをございます。

2点目として、国及び千葉県の第2期総合戦略を勘案し、これまでと同様に4つの基本目標を設定するとともに、新たに2つの横断的な視点を設定し、取組を推進していくことをございます。

続いて、これらの基本的な考え方を踏まえて策定しました、第2期総合戦略の案を御説明いたします。

資料1-2「第2期八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」をご覧ください。

初めに、趣旨につきましては、先程の説明と重複いたしますので、詳細は割愛させていただきますが、第5次総合計画と一体的に策定したこと、具体的な取組とKPIは、実施計画に位置づけることなどを記載しております。

次に、下段の目指すべき展望につきましては、人口の現状及び将来の見通しを示す人口ビジョンを踏まえることとされていることから、令和2年3月に改訂した「八千代市人口ビジョン」の将来展望と同様に、令和42年時の本市の人口が、将来人口推計値の約17万3,000人を上回ることを目標といたしました。

続いて裏面をご覧いただきまして、横断的な視点と基本目標につきましては、第1期総合戦略の取組を継続する姿勢を基本に、地方創生を担う人材など多様な人々が活躍し、多様性に富む豊かな地域社会を構築するとともに、サイバー空間と現実社会が高度に融合した「超スマート社会」の実現を目指すSociety5.0の推進や、SDGsの理念に沿ったまちづくりなど、新しい時代の流れを取り入れることが重要であることから、新たに設定する2つの横断

的な視点を踏まえ、4つの基本目標の下に、取組を推進することとしました。

横断的な視点の1点目、「多様な人材の活躍を推進する」につきましては、地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として参画し、活躍できる環境づくりや、女性や高齢者、障害者など多様な人材が活躍できる地域づくりを推進していくことを記載しております。

2点目の「新しい時代の流れを力にする」につきましては、AIやビッグデータなどの未来技術を活用し、地域課題の解決及び市民生活の質の向上を図るとともに、SDGsを原動力とした持続可能なまちづくりなどの取組を推進していくことを記載しております。

次のページをご覧くださいまして、基本目標につきましては、「それぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「やちよの魅力を創出し、新しい人の流れをつくる」、「魅力あるしごとをつくり、地域経済の稼ぐ力を高める」、「誰もが安心して暮らせる持続可能なまちをつくる」の4つを掲げ、それぞれに基本的方向、施策体系、数値目標を設定しております。

4つの基本目標につきましては、第1期総合戦略の名称を変更したものの、基本的には引き継ぎ、設定いたしました。

初めに、基本目標1の「それぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につきましては、基本的方向として、誰もが安心して子どもを生み・育てることができる環境づくり、子育てを地域社会全体で支える機運の醸成及び仕事と子育てを両立できる環境づくり、充実した教育・保育環境について設定いたしました。

その下の施策体系につきましては、基本的方向の下、地方創生の観点から取組を推進するために設定しており、基本目標1では、「結婚・出産・子育てのライフステージに応じた支援」、「働きながら子育てしやすい環境づくり」、「これからの社会をたくましく生き抜く子どもの育成」の3つを設定しております。

また、各基本目標における数値目標につきましては、前期基本計画の指標の中から設定しており、基本目標1では、「保育園待機児童数」と「子育てしやすいまちと感じている市民の割合」の2つとしております。

次に、下段の基本目標2「やちよの魅力を創出し、新しい人の流れをつくる」につきましては、基本的方向として、住み続けたいと思えるまちづくりや、市のシンボルであるツツジ・バラ、市民参加により形成された新川千本桜などを活用したシティプロモーションの推進、多様な観光資源を活用した新たな交流人口の創出について、設定いたしました。

また、施策体系として、「誇りと愛着の醸成と定住促進」、「市内外から気軽に訪れたい観光づくり」の2つ、数値目標として、「今後も八千代市に住み続けたいと考えている市民の割合」、「新川周辺が活性化していると感じている市民の割合」、「観光入込客数」の3つを設定しております。

なお、現況値と目標値が作成中となっている指標につきましては、現在実施しております市民満足度調査の結果をもって、改めて設定することから、このような表記としておりますので、御了承ください。

続いて裏面をご覧くださいまして、基本目標3「魅力あるしごとをつくり、地域経済の稼ぐ力を高める」につきましては、基本的方向として、地域の強み・特色を活かした産業振興、様々な人が生きがいを持って安心して働ける環境づくりの推進を設定しております。

また、施策体系として、「中小企業をはじめとした地域企業の活性化支援」、「都市農業の振興と担い手の育成」、「多様なライフスタイルに応じた柔軟な働き方の支援」の3つ、数値目標として、「小売業の年間商品販売額」、「認定農業者数」の2つを設定しております。

次に、下段の基本目標4「誰もが安心して暮らせる持続可能なまちをつくる」につきましては、基本的方向として、大規模自然災害や新たな感染症に対応できる体制の構築、誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり、魅力的な地域の形成に向けた新たな賑わいの創出や各拠点における利便性の向上などを設定いたしました。

また、施策体系として、「安全で快適に暮らせる地域づくり」、「多様な主体がつながり、生涯を通じていきいきと暮らせる環境づくり」、「地域資源を活かした魅力あるまちづくり」の3つ、数値目標として、「自主防災組織カバー率」、「地域医療体制が整っていると感じている市民の割合」、「65歳平均自立期間」の3つを設定しております。

続いて、次のページをご覧くださいまして、「4 第5次総合計画前期基本計画との関連」としまして、4つの基本目標における施策体系と、第5次総合計画前期基本計画の各施策との関連を表しております。

表の見方としましては、左側が第2期総合戦略の各基本目標における施策体系、右側が第5次総合計画前期基本計画の施策の中から、それぞれ関連する施策を示した表となっております。

ここで、本日追加で配布させていただきました、参考資料1-6をご覧ください。

こちらは、基本構想において、将来都市像の実現に向けた5つの柱として示しております、第1章から第5章までの施策の大綱に紐づく施策及び計画の推進のために紐づく施策体系を表したものとなっております。

この施策体系にある番号と施策を、先程お示しました関連している前期基本計画の施策として記載しております。

例えば、資料1-2の基本目標1「それぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に関連する施策として、一番上に、柱が1章、施策の番号が1-1-1、「多様な保育ニーズへの対応」とございますが、こちらを参考資料1-6の前期基本計画の施策体系で申し上げると、2枚目の19ページと表記されているページをご覧くださいまして、第1章ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり、第1節子ども・子育て、1.教育・保育環境の(1)多様な保育ニーズへの対応と関連していることを表しております。また、色が付いている項目がございますが、こちらが関連している項目に該当しております。

冒頭にて、総合計画と総合戦略の方向性が共通していることを御説明しましたが、社会保険や上下水道など一部の施策を除いて、多くの施策と関連するものと考えております。

以上で、議題1「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について」の説明を終わります。

○田中座長

ただ今事務局から説明がありましたが、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の内容について、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

○佐藤委員

1点だけ。細かなことかもしれないんですけど、基本目標1のそれぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえるの施策の体系、様々なことを網羅されていらっしゃると思います。

前回からここまで、いろいろまとめになったと思いますので、施策体系の中にまで入れるかどうかわからないんですが、ちょっと確認で、働きながら子育てしやすい環境づくりとあるんですが、働いていない方も多くいらっしゃいますので、働きにあえて行かないというか、行かないで子育てに専念していらっしゃる方も多いです。それはお母さんが多いでしょうけれども、お父さんということもあるかもしれませんが、そういったケースはなかなか、シングルケース、シングルオペレーションと言って、1人で子育てをして孤立しやすいというのが、最近問題になっております。

働いている人はもちろんそうなんですけど、逆に保育園という窓口があって繋がっているんですけど、そうでない場合というのは、八千代市に引っ越してきたばかりで誰も知っている人がいないとなると、孤立しやすいような側面がありまして、ぜひこの辺りも網羅していただいて、親子ともに健全に子どもが成長していくと、落ち着いたらやっぱり働くようになるというケースも多くございますので、施策体系のところにあえて見出しで入れる必要はないと思うんですけど、もし細かなところに取り掛かるようであれば、そのあたりも入れていただけたらありがたいなと思います。

同様に、福祉とかそういうところにもですね、入れ込んだ方がいいかなとは思っています。

皆さん御存知の通り、私は地域包括の委員もやっていて、介護している人が孤立しているというケースがありますので、そこをどうやってニーズをピックアップして、各種施策に繋げていくかというのは、大変な状況になってからですと、あまり言い方としては悪いんですけど、税金のかかる話になってきてしまうので、早い段階でピックアップして施策に繋げていく、それは当事者にとっても一番いいことなので、子育てや介護、孤立に陥りやすい人達のことを踏まえた表記を全体的に入れていただけると良いなと思いました。

○田中座長

事務局回答いかがですか。

○事務局

基本目標1のそれぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえるの施策体系の1番のところで、結婚・出産・子育てのライフステージに応じた支援と掲げておりますが、それぞれ結婚、妊娠・出産や子育てへの場面でのそれぞれのライフステージに、個別に抱えている問題ですとか、支援を求めたいニーズというところがあるかと思っておりますので、そういったところを拾いながら、切れ目のない対応を行っていきたいと考えております。

ここからまたさらに具体的に実施していく事業を整理させていただき予定でございますが、先ほど委員からいただいた御意見も含めて、取組内容といったところに反映させていただくようなかたちで、検討させていただきたいと思っております。

○佐藤委員

ありがとうございます。ぜひそうしていただいて、安心安全なまちづくりの中でコミュニティという話も出ているので、そういうところと重複していることがあると思いますので、その辺りも含めて御検討いただけたらと思います。ありがとうございます。

○田中座長

他に何か御質問や御意見等ございますでしょうか。町塚委員。

○町塚委員

ジェイコムの町塚でございます。

基本目標が4つ掲げられています。1で言うとそれぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえるということで、施策体系のところも支援や環境づくりや育成ということで掲げていただいています。

私もメディアの立場ですので、メディアの観点で意見を申し上げたいと思うんですが、今回の計画は、若い世代を中心とした転入超過の流れを継続させるという考え方をベースにしていると思いますので、これら基本目標に掲げられたことを、広く周りの八千代市以外も含めて、市内も含めてだと思いますが、伝えていくということも施策の1つとして御検討いただけたらどうかと思います。

特に、今ホームページでも動画を掲載されたりしていると思いますので、その一環だと思うんですけども、情報の伝え方にはプッシュとプルがあると思います。例えば、ホームページに動画を置いておくというのはプル型ですよ。来ていただくかたちということだと思いますので、より多くの人に伝えていくという観点では、プッシュ型で広く伝えていくことも検討に値すると感じます。

また、デジタルの活用という観点では、動画をホームページに置いておくというのは、的を射ていることだと思いますが、デジタル弱者の方もいらっしゃる中で、そういう方への配慮というところもおそらく必要になってくるであろうと思います。活用しつつ、かつ配慮するという難しいことではありますが、両面での伝える施策ということも御検討いただけたらどうかと思います。以上です。

○田中座長

これに対して、事務局の回答はありますか。

○事務局

御指摘いただいた通り、この内容を市民の方々にまず広く理解していただき、取り組んでいく内容を共有させていただいて、より利用していただく、それによって満足度を高めていただくということが重要だと感じております。

先程の広く伝えていくというところでございますが、国の方でも、施策として行政のデジタル化、新しい技術を使った行政サービスというところで謳われているところもございます

ので、本市の取組としても、各種のメディア等を通して理解をしていただくかたちで広報活動をさせていただきたいと思えます。

一体的に策定をしていくということで、先程から触れさせていただいております前期基本計画の中でも、魅力あるまちづくりの一環で、八千代市の取組や地域の資源、そういったものを活用して広くシティセールスしていく、市内外も含めてお知らせをすることによって、移住・定住の促進を図っていきたいと考えておりますので、いただいた御意見も踏まえまして、取り組んで参りたいと考えております。

○田中座長

ありがとうございます。

先程言われたデジタル弱者に対する対応について、お年寄りがスマートフォンを使わないし、パソコンも使えないという方が結構いらっしゃいますので、そうした方に対する対応も非常に重要になってくるんじゃないかと思えます。

もちろん、IoTやAIなどを駆使して、色々な方向に情報提供していくことは当然の流れですけども、追いついていけない人がいらっしゃいますので、そうした方への対応をどうするかということも検討していただければと思います。

他に何かございますでしょうか。

○上大川委員

1点、先ほどの説明について教えてもらいたいんですけど、総合計画自体は市政全般にわたる網羅的な施策となっていて、総合戦略は、基本的には急激な人口減少の緩和や地域経済の活性化、持続可能な社会の形成などに特化した計画になっているものと思うんですけども、それを総合計画と総合戦略は、当然同じ方向性を向いていますので、同じ計画の中に組み込むというのはおかしくないのかなと思っているところですけども、記載の仕方で、施策体系に対して、総合計画の基本計画の施策と当然同じものになってきますので、総合戦略は文言の説明であって、それに基本計画の個別事業をくっつけるということなんでしょうか。

私が考えたのは、総合戦略の中に、ある程度個別事業が入ってくると重複が出てきて、我々と事業自体が再掲となり重くなってきて、一体とした意味合いというものが見えてこない、逆に言うと見づらくなって来るだろうなという思いがあったんですけども、総合戦略を第4編に作ったっていうことは、その中には基本的に個別事業というものは盛り込んでいかないかたちで構成されているということによろしいんでしょうか。

○事務局

資料1-2の第5次総合計画前期基本計画との関連で対比をしているところですが、取組の内容が重複しているところを整理し、切り口を変えたかたちで表記をしているところがございまして、具体的な取組につきましては、改めて実施計画事業で整理をさせていただくかたちになりますので、さらに詳細な事業内容につきましては、この戦略とはまた別の部分で表記をして取り組むかたちになっております。

○上大川委員

もう一度、総合戦略とは違うものを別に作成するという事なんですか。

○事務局

総合戦略の具体的な取組につきましては、総合計画の中の実施計画において、個別の取り組み事業を掲げますので、そちらの中で具体的な取り組み事業の内容につきまして、記載をしていくかたちで整理をさせていただくようになっております。

○上大川委員

では第4編の中にはそれは入れないということ。わかりました。

○田中座長

私からよろしいですか。第2期総合戦略の基本目標にそれぞれ数値目標があるんですけども、第1期総合戦略の中にはこれ以外の、例えば学童保育所待機児童数の目標などが入っていますし、魅力創出プロジェクトの中でも、細かく色々な数値を挙げて目標を掲げていらっしゃいます。

それから基本目標3のところ、小売業の年間商品販売額ということで挙げているんですけども、前のを見ると工業の年間商品販売額などがあるんですけども、特に今回はここに絞ってということで挙げているんですか。それとも他の数値については、実施計画にKPIを設定していくとかたちになるのでしょうか。

○事務局

この戦略に基づいて、さらに具体的な事業を取り組んでいくところですが、具体的な事業を整理させていただく中で、その事業自体で目標とする指標を改めて設定し、取り組んでいくかたちで整理をしていくことで考えております。

○田中座長

このほかにも数値目標が出てくるということですね。わかりました。

他に何か御質問・御意見等ございますか。島委員お願いします。

○島委員

基本目標1に戻ってしまうんですけども、これから社会をたくましく生き抜く子どもの育成という施策体系がございまして、こちらに関しての数値目標等の設定等はあるのでしょうか。ないしは、どこと比べて育成という内容になるのでしょうか。

○事務局

この施策体系3のこれからの社会をたくましく生き抜く子どもの育成としまして、関連す

る前期基本計画の施策については、主に2章の安心安全な教育環境の整備や教育内容の充実など、子どもの教育に関する部分も含めて推進をしていく観点も入れておきまして、数値目標につきましては、子育てしやすいまちと感じている市民の割合というところで包含しているとともに、具体的な取組については、実施計画で取り組んで参りたいと考えております。

○田中座長

よろしいですか。そのほかに何か御質問等ございますでしょうか。
島貫委員お願いします。

○島貫委員

千葉銀行の島貫です。

各基本目標の中に設定している目標値についてですが、こちらの数値というのは、どういう根拠に基づいてこの数値を掲げているのかというのを教えてください。

またもう1つ、基本目標1の数値目標で、保育園待機児童数の目標値が0ということで、もちろん理想としては、この数値がよろしいかと思うんですけども、参考資料の1-4を拝見すると、保育園待機児童数というのは、ここ数年大分増減がありまして、特に平成28年度と29年度は100人を超えているということで、その他の年より大分増えているんですけども、この29年度から30年度にかけて、114人減少していて、その後横ばいになっているんですけども、どういう要因があったとか、そういうことは何か捉えていらっしゃるのかなと思いました。

以上2点確認させてください。

○田中座長

28・29年度、急激に増えた要因は把握してますでしょうか。

○事務局

増要因は手元に資料がございませんが、減要因としては、保育園を新たに整備していただきまして、そういったところで待機児童数が大幅に減少しているところがございます。具体的な数字の資料が今手元にございませんが、待機児童数のゼロを目指すということで、今後につきましても、新たに整備する以外にも、全体の中での調整その他の工夫をさせていただいた上で、待機児童数ゼロを目指すということで、目標の設定をしているところです。

○田中座長

目標値の数字の根拠についてはいかがですか。

○事務局

数字の根拠につきましては、これまでも設定している指標については、これまでの進捗状況を踏まえ、改めて担当部署の方に調査をさせていただき、現状と今後の予定、取組内容も

踏まえまして、目標数値を改めて設定しているところでございます。

○田中座長

よろしいですか。

待機児童について、政府の方では全世代型社会保障で最終報告をしていますけど、4年以内に待機児童数ゼロを目標にするという報告書が出ておりますので、それに沿って、市も行っていくということだと思います。

佐藤委員どうぞ。

○佐藤委員

今の待機児童に関連して、もう一度参考資料1-4を見て、学童保育の待機児童があると思うんですが、この基準値が173人っていうことは、173人待機していてよいということなのかということと、平成30年度が保育所が30人、学童が134人なので、年齢が上がっただけなのかなという気もしました。

子育てって子どもが成長しますので、単年度で見ることはできなくて、ずっと経年で追っていくということが必要だと思うんですね。学童保育の問題は働くお母さんにとって大問題で、いよいよ復帰しようと思ったけど、もうパートでしかできないとか、30代、40代という、これからまさに働こうというお母さん達が学童の問題で仕事の継続を諦めるというケースもあって、そのあと再就職しようと思うと、またパートしかないというような状態に陥る。保育園も深刻ですけど学童も深刻で、待機児童がいるということは、子どもは留守番している。場合によっては、小学1年生でも留守番している。コミュニティがなかなか昔のようにならない状態で、基準値そのものが173人で、これを下回ってればいいということではおそらくないと思います。

併せて、子育てしやすいまちづくりが49.1%って、半分でいいのかということなんだろうと思うんですね。誰もが八千代市に行ったら、子どもが伸び伸びしたねとか、子育てが楽しくなったねというのであれば、この計画自体、この会議自体実りあるものになると思うんですが、今改めて見ますと、やはりこの数字が低い。全体的な計画の中に項目を置いて、総合戦略の中で活かしていくというお話だったんですが、やっぱりこの49.1%の子育てしやすいまちと感じている人がそれだけあればいいということではなくて、さらにもっと上を目指すと。特定の市を挙げて申し訳ないんですけど、やっぱり流山市とかかなり進んでいまして、色々な手だてを講じていらっしゃると思います。

社会増だけではなくて、やっぱり産んで育てることができるということで、1人目だけではなくて2人目3人目と仕事を続けながら働いていると。そういう自治体の取組を見ますと、まだ人口が社会増の八千代市においては、そこまで取り組まなくても大丈夫ということなのかかわからないんですけど、やっぱり改めて見ると、こういった学童の待機児童なんかも、もう一步強い踏み込みをしていただきたいなと思います。そういう人材も必要ですから、単に作ればいいということではありませんので、学童の専門人材というのは学会でも大変大きな問題になっていきますので、そういったところも併せて取り組むのと、減ってしまったって

うのは他市に移動してしまっているのかわからないんですけど、そういったところも含めて、数字を出していただくとありがたいなと思いました。

すみません。特にコメントはいいないです。

○事務局

先程委員がおっしゃった基準値ですけれども、総合戦略を策定する段階で、平成27年4月1日時点の待機児童数を基準値として設定をしておりましたので、これを目標にということではございません。実際に始まる時点で、保育園待機児童数が42人、学童保育所待機児童数は173人というところで、それに対する目標値として、それぞれの待機児童数がゼロになるように目指すというかたちで、設定をさせていただいたところでございます。

まだ実際には31名と134名ということで、待機児童数が解消されていない現状ではございますが、最初の始まる前の時点よりは、若干ですが向上しているところでございます。

子育てと仕事の両立をするためにということでは、働き方の支援や、また保育の対応についても非常に重要であると考えておりますので、こういった取組につきましても、第2期の戦略の中で、きちんと取り組んでいければと考えております。

○佐藤委員

すみません失礼しました。

それでも目標値は来年の4月1日になっていて、解消されるのかなと思うところですね。保育園はやはり、厚労省からも手厚く補助金があるでしょうけど、学童保育ってなかなか難しいところがあると思います。運営主体をどこに置くかということでも大変な問題で、134人というのは解消しにくい数字のようにも思います。

また、子育てしやすいまちづくりが55%で微増という、奥ゆかしい数字を挙げていらっしゃるんですが、やっぱりここはもう少し目標値としても上げて、さつき町塚さんがおっしゃったようにたくさん広報して、みんなの元気になるような、こんなところもありますよとか。私もジェイコムさんはよく見るんですよ、町のレストランがどこにありますとか。そういうものや学校の番組を見たりしますと、地域を実感したりするので、色々な方法を使いながら、数値を上げていく取組をしていただきたいなと思います。

すみません色々と申し訳ないです。

○田中座長

事務局お願いします。

○事務局

それでは、先ほどの回答の補足ではございますが、保育園と学童保育所のこれまで行ってきた実績について述べさせていただきます。

保育園につきましては、平成29年度は保育園の新設や定員拡大を行い、236人の増加を図りました。平成30年度につきましても、保育園の新設や私立の幼稚園から認定子ども

園への移行に取り組み、定員としては397人の増加を図りました。

令和元年度につきましても、利用定員としては220人の増加を図ったところでございまして、そういった取組から、保育園待機児童数として、28年度、29年度と100人を超えていたところが、30年度、令和元年度と、30人程度になったのではないかと考えております。

また、学童保育所につきましても、平成30年度に学童保育所の新規開設等を行い、150人の定員拡大を行いました。また、令和元年度につきましても、同じく学童保育所の増設に取り組み、110人の定員拡大を行ったところでございます。

学童保育所につきましては、保育園とは若干異なりまして、小学校区の中にある学童保育所の中に通うというところもございまして、現在小学校の中に無い学童保育所につきましても、小学校の敷地内への新設や空き教室を活用した定員拡大等に取り組んでいるところではございますが、地域によって待機児童が発生していないところもあれば、待機児童数が集中している地区もあるという現状でございます。

以上でございます。

○田中座長

はい。かなり定員の増加を図ってですね、保育園の待機児童数を少なくしたということでございますので、引き続き4年後に、4年後と言わずにですね、待機児童がゼロになるように施策をお願いしたいと思います。

あと他に何かございますか。ちょっと私からよろしいですか。

基本目標1でそれぞれの結婚・出産・子育ての希望をかなえとあるんですけども、結婚ということで、ある自治体ではAIによる婚活、それをかなり先行しているという話がございます。Society5.0の推進ということもありますので、AIを使ったそういった事業について、県単位でやっているのかもしれないですけど、千葉県もそういう話が出てくるのかどうか、そういったところからやっていかないとなかなか子どもが増えていかないんじゃないかという気がするのですが、その辺はどうお考えでしょうか。

○事務局

ここで掲げさせていただいている結婚についての取組ですが、具体的な事業について想定しているところでは、移住・定住を図るといふところの観点から、八千代市が魅力的な場所であるといふところのアピールをさせていただく中で、それと結婚を関連づけて、シティセールスをやっていきたいと考えております。

また、なかなか若い方が結婚するとなると、経済的な面でちょっと尻込みをしてしまうということもあるかと思っておりますので、住宅施策等で、そういった後押しができるようなことができないか、そういったところも含めて、今後の具体的な事業の中で検討していきたいと考えております。

○田中座長

わかりました。では他に何か御質問、御意見等ございますでしょうか。
町塚委員お願いします。

○町塚委員

町塚でございます。

ひょっとすると前回も同じようなことを申し上げてしまっているかもしれないんですけども、この1-4のKPIを拝見してもたくさん項目があって、基本目標も4つあって、やらなければいけないこともたくさんあるという状況だと思いますが、これを全て高い水準で達成するのはなかなか難しい状況だと思います。

やはりメディアの観点で言いますと、いろんなところにお伝えをしていく時に、差別化戦略といいますか、他のエリアと明らかに違うというメッセージがあると、いろんな方に伝えやすいということになると思いますので、ある特定の分野に注力をするかたちで取り組むということも考慮されたらどうかと思います。

何を言っているかという、すべての項目を高い水準で達成するのは難しいでしょうから、例えば若い世代応援プロジェクトのところを徹底的に達成するということを差別化戦略として選び、それを強烈なメッセージとして出していくというようなことも、検討をされてはどうかというふうに感じます。以上です。

○田中座長

確かにこのKPIの、それぞれの項目を見ると非常に高い数字ですし、いろんなものがいっぱいありすぎてですね、全部やるには大変だなという気がするんですが、全て大事なことなんですけども、ある特定のところに特化するっていうのをですね、1つのPRの仕方というか、若い人に魅力ある市だなと感じる一助になると思うんですね。

その辺は事務局いかがですか。

○事務局

委員がおっしゃるように、実際に八千代市を選んで住んでいただく、今住んでいらっしゃる方にそのまま住み続けてもらうということで、PRをするためにある一定の部分を特化して、まず市を知っていただく、認知していただいて、こういった取組をしているというところを理解していただいた上で、選んでいただくことが必要だと思いますので、そういった御意見を含めまして、シティセールスについて、今後どう選んでいただくか、魅力創造ということも含めて、取り組んで参りたいと考えております。

○田中座長

よろしいですか。他に何か御意見等ございますでしょうか。

佐藤委員さんどうぞ。

○佐藤委員

八千代市は高校と大学の数が周辺市よりも多いように感じておりました、八千代市にそもそも校舎のある大学もありますし、そういったところとうまく、教育のところにありましたよね、これからの社会をたくましく生き抜く子どもが教育的なところで、ある程度の数値目標のようなものを出したいというお話だったと思うんですが、たくさん八千代市に高校や大学といった高等教育があるので、そこと上手に連携を図って地域色を出したり、あるいは若い人たちが様々なアイデアも持っていると思うので、基本計画に載せないまでも、プランでできるのかなというふうに思います。

私がこの委員になった時の作文にですね、八千代市は大変教育機関が多いなと感じていると書いたんですね。それは1つ特色でもあると思うんですね。何か教育機関を熱心にどうこうではなくても、やっぱり教育機関がここにいてくれるということは、八千代市にそれなりの魅力があったと、いろんな諸条件はもちろんあったと思いますけど、産学官連携するにも、どうしてもそういった教育機関、しかも地元にある大学、八千代という名前がついた大学もあったことですから、そういったところも模索をなさってはどうかと思いました。

○事務局

委員がおっしゃる通り、市内に多くの高校・大学があるというところで、教育機関が多いという恵まれた環境がございます。第5次総合計画前期基本計画の施策の中にも、教育という施策の部分として、高校・大学教育との連携を掲げて推進をしていこうと考えております。

八千代市に住んでいる方が基本でしょうけれども、近隣の市町村から八千代市に通学ということで訪れていただいている方も多くいらっしゃいますので、次世代の地域を担っていただくリーダーとして、また地域の誇りと愛着を育てていただく、そういったところも含めて、地元の小中学校とも連携を深めながら、何か取組をしていくようなかたちでできないかということで、1つの施策として掲げて、今後取り組んでいきたいと考えております。

○佐藤委員

ありがとうございます。ぜひよろしく申し上げます。

○田中座長

産学連携については会議所もやっています、最初はやっぱり工業製品の開発や技術の開発とか、そういうところで千葉工大さんとか日大さんと、あと千葉大さんなどもやっていたんですけども、やっぱり新製品の開発というのはなかなか時間がかかることでございまして、そういった中で食に目をつけまして、最初は和洋女子大の管理栄養学科と蕎麦の会の皆さんで、新しいメニューの開発ということでやらせていただきました。

最近というかもう第4回目になるんですけど、八千代高校の家政科の生徒さんとやちパンプロジェクトですね、13日まで販売したんですけども、市内のパン屋さんと家政科の生徒さんが八千代やまちの物産をテーマにして、農産物を使って八千代らしいパンを作るということでやりました。

市とも一緒に協力していますが、高校との産学連携は非常に珍しい事例で、非常に市民も

楽しみにしてはいます、結構な売上を上げているということですので、良い取組だったというふうに思います。

○佐藤委員

やちパンですよね。やちよカレーもやっていますよね。

○田中座長

やちよカレーもやっています。これは秀明大学の生徒さんがインターネットで配信するか、そういったことをお手伝いいただいていますので、そういう意味では市内の大学とも連携をしていくということはやっています。

何か市の方で秀明大学と協定とかそういうのは結んでないんですか。

○事務局

市の方でも産官学の協定を結んでおまして、観光の分野において京成バラ園と秀明大学の学部との3者の協定を結んでおります。

○佐藤委員

良いことだと思いますので、ぜひ最初小さく始めて大きく育てるではないですけど、やはり学生さんたちが八千代市を知って、やちパンなんか特に地域のパン屋さんと共同してやりますよね、そういうのがやっぱり愛着を感じる1つで、まだ始まったばかりですすぐ結果が出るわけではないでしょうけど、私もやちパンはいただきますので、そういったいろんな取組をされて、それが魅力に繋がるようなかたちに、うまくメディアの方とも連携しつつおやりになったり、あと柱が欲しいなど、町塚さんがおっしゃるように、みんなが覚えやすいようなフレーズはやっぱり必要かなとは思いますが、ぜひ応援します。

(2) その他

○田中座長

何か他にはございますでしょうか。よろしいですか。それでは無いようですので、次の議題に移ります。

議題(2)「その他」ですが、事務局から何かありますか。

○事務局

それでは、議題2「その他」として、3点ほど連絡事項がございます。

1点目は、第5次総合計画の進捗状況でございます。

現在、総合計画における市長の諮問機関である「八千代市総合計画審議会」に、総合戦略を含め、前期基本計画の素案として諮問をしており、1月下旬に答申をいただく予定となっております。

また、総合計画審議会の審議と並行しまして、市民の皆様から御意見をいただくパブリッ

クコメントについて、12月8日から1月7日までの期間で、実施しているところでございます。

今後につきましては、本懇談会の御意見、総合計画審議会の意見と答申、パブリックコメント等の意見を踏まえまして、今年度中の策定を予定しております。

続いて2点目は、次回会議の開催予定でございます。

次回につきましては、いただいた御意見などを踏まえて、修正しました計画について、委員の皆様にお示ししたいと考えております。

日程につきましては、3月頃に開催したいと考えておりますので、後日日程調整させていただきますので、御協力をよろしくお願いいたします。

3点目は、令和3年度以降の総合戦略に係る会議体についてでございます。

本懇談会につきましては、八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会設置要領の効力が令和3年3月31日までとなっており、今年度をもって終了することとなっております。

令和3年度以降につきましては、総合戦略を包含する総合計画として策定することから、今後は、総合計画審議会において、委員の定数を増やし、総合戦略に関する事項も併せて議論を行っていくことを考えております。

なお、総合計画審議会につきましては、条例にて設置している会議体であり、今後、条例改正を行う予定でございますので、詳細につきましては、改めてお伝えいたします。以上でございます。

○田中座長

ただ今の事務局からの連絡事項について、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、以上を持ちまして本日の「まち・ひと・しごと創生懇談会」を閉会といたします。長時間にわたり、御協力いただきましてありがとうございました。